



2学期スタート!

9月1日の朝。真っ青な空を背景に鈴鹿の山々がくっきりと美しい稜線を見せていました。暑さは残るものの、吹く風に爽やかさが感じられるようになりました。

日焼け顔の小山田っ子が、夏休みの作品や引き出しなどを抱えて元気に登校してきました。久しぶりに先生や友だちと顔を合わせて、自然と笑みがあふれ出る様子でした。

始業式の校長の話では、2学期は最も長く、運動会や芋煮会など大きな行事がたくさんあることを伝え、皆と協力して一生けんめい取り組んでほしいと話しました。その後、私が以前担任した男の子の話をしました。子どもたちは皆、真剣に聞いてくれました。詳しくは、裏面に載せましたのでご覧ください。

ところで、始業式では、思わぬハプニングがありました。パン!パン!突然、大きな音が5発しました。実は、体育館の周りにサルやハチの群れが現れたため、光広先生が駆除用花火で追い払ってくれたのでした。サルやハチなど危険な生物には十分な注意が必要ですが、自然豊かな小山田地区ならではの出来事でした。2学期も自然に親しみ、めあてをもって勉強や学校生活に取り組んでほしいと思います。

4日(月)から、運動会の練習が始まりました。熱中症にならないように体調管理に留意し、水分補給を欠かさないように取り組みたいと思います。ご家庭でもご協力よろしくお願いします。



親子除草 ご協力ありがとうございました!

9月2日(土)は、今年度2回目の親子除草でたいへんお世話になりました。

今回は、児童の健康面を考慮して、日差しが柔らかな1限目に、児童のみで運動場トラック内の草抜きをするよう時間設定をしました。子どもたちは、スコップを手に一生けんめい手強い雑草に向き合い、時間が来ても「もっととりたい!」と意欲を見せていました。とてもがんばりましたね。

その後、保護者の皆さんには、およそ1時間半、地区別に校庭のすみずみまで作業にあたっていただきました。おかげさまで、校庭がすっきりときれいになり、気持ちよく2学期のスタートが切れます。暑い中、本当にありがとうございました。



お知らせ

- 9月8日(金)に、地震を想定した**避難訓練**があります。
 - ・ 今回は、四日市消防団小山田分団の皆さんをお招きして、避難の仕方などご指導いただく予定です。
 - ・ 保護者の皆さんにも同時刻にすぐメールで訓練開始をお知らせします。家庭・職場などそれぞれの場所での緊急時対応についてお考えいただく**シェイクアウト訓練**に、ご協力をお願いします。
- **キッズ☆キズナカード**の取り組みをお願いします! ※ 県内の全小学生による取り組みです!
 - ・ 本日(9月6日)、お子さまにキッズ☆キズナカードと保護者向け通知『三重県警察からのお願い』を配布しました。通知文をお読みいただき、各ご家庭でお子さまと一緒に取り組みをお願いします。
 - ・ 振り込め詐欺などの被害にあわないように、お子さまから身近な大人に手渡しするか、郵送するようにご指導ください。9月18日(敬老の日)をめどにお取り組みください。
- 6年生児童への**平成29年度 全国学力・学習状況調査の個人票の返却**について
 - ・ 成果や課題を自覚し、今後の学習に活かすために、6年生に返却します。返却日は、**9月8日(金)**。

小山田分団の皆さんは、7月16日に行われた四日市市消防団消防操法競技大会で、25分団による激戦の結果、見事初優勝されたそうです!

おはよう！ またあした！ おやまだっ子通信



小山田小学校長

やったあ！ だいじょうぶ？

たかちゃん ～車いすで学校生活を送る子との出会い～

始業式で、以前から伝えようと思っていた一人の教え子のことを話しました。私が、かつて勤務していた小学校の支援学級で、4年生から6年生まで担任したその男の子は、皆から親しみを込めて「たかちゃん」と呼ばれていました。

たかちゃんは、生まれつき脳性麻痺という病気で足が不自由なために、車いすで学校生活を送っていました。冗談が好きで、よく笑うたかちゃんは、苦手な算数の授業が終わると、「体力が減った。歳をとった。」などと言っていました。

たかちゃんは、3年生までは給食当番をしなくてよいことになっていました。車いすでおかずをよそったり、配ったりするのは無理だろうという、担任や周りの友達の親切な気持ちからだったのでしょう。

転機になったのは4年生です。新しい学級の担任から「たかちゃんも当番をするのが当たり前でしょ！」と言われ、給食当番をすることになりました。たかちゃんは給食エプロンをつけ、車いすのまま、牛乳を配ったり、おかずをつけたり、時間はかかるものの他の誰よりも熱心に当番がんばりました。

初めて当番をした日のことを、後日、母親から聞きました。たかちゃんは、「ぼくは、給食エプロンがあこがれだったんだ」とお母さんに話したそうです。

体育の時間も、皆と一緒にすることがありました。足でボールを蹴って走るキックベースの授業では、皆で「たかちゃんルール」を考えて、たかちゃんも楽しめるように工夫しました。たかちゃんは、セーフになると大喜びし、試合に負けると誰よりもくやしがっていました。

体育で「とび箱」をすることになりました。私は内心、「困ったなあ。たかちゃんにどうやってとび箱をさせたらいいだろう」と思いました。でも、その頃には私はあれこれ指示を出すことはせず、本人に「どうする？」と聞くようにしていました。皆の跳ぶ様子をジッと見ていたたかちゃんは、「先生、とび箱1段だけ置いて」と言いました。私が1段目だけ置くと、車いすから降りて、手の力だけで、乗りこえました。「もう1段置いて」たかちゃんのチャレンジは続き、2段、3段、…結局、5段もの高さを乗り越えることに成功しました。いつの間にか、たかちゃんの周りには友達が集まり、「たかちゃん、もう少し！」「がんばれ！」と大きな歓声や拍手がおこりました。

毎日の関わりを通して、私や周りの児童の中には、たかちゃんが「車いすで生活する」特別な存在でなく、明るくて面白くてちょっとドジをする大切な友達の一人という当たり前の関係ができていました。

もちろん、教室移動や階段の上り下りなど、学校生活の中で、周りが手伝ったり、力を貸したりしなければならぬ場面はたくさんありました。でも、本人がやりたいこと、できることまで周りが「してあげる」ことは、たかちゃんにとってうれしいことばかりではないなあと感じるようになりました。

私は、たかちゃんとの出会いによってたくさんのことを学ばせてもらいました。顔や性格、得意なこと・苦手なこと、学ぶスピードなど一人一人違って当たり前です。人と違うところ、できないことばかりに目を向けて、自分自身や他の人のことを評価してしまうと、とても生きづらくなってしまいます。一人一人が自分らしく精一杯生きることが認められる、励まし合える…そんな学校、社会にしていきたいですね。(森本)



たかちゃんの母親は、車いす用の駐車場に健常者が車をとめると大変困ることがあると話していました。「障害」があることで、生活しづらいこと、いやな思いをすることは、残念なことですが、まだまだあるようです。

一人一人が、相手の立場になって考える思いやりの心をもつことが大切だと感じます。

「障害」は、不(①)であるが不(②)ではない。

「障害」者を不(②)にしているのは、(③)である。

ヘレン・ケラー

① 自由 ② 幸 ③ 社会

